平成１９年１０月３１日

月周回衛星「かぐや(SELENE)」
ミッション機器の展開・伸展結果について

宇宙航空研究開発機構（ＪＡＸＡ）は、種子島宇宙センターから打ち上げた「かぐや（SELENE）」について、観測に向けてミッション機器の展開・伸展を平成１９年１０月２８日から１０月３１日（日本時間）にかけて以下のとおり行いました。現在、衛星の状態は正常です。

・月磁場観測装置（LMAG）

月の磁場を観測する装置。磁場を観測するセンサ（磁力計）を先端に取り付けているマストを約１２ｍまで伸ばし、観測の準備を行いました(図２参照)。

・月レーダサウンダー（LRS）

レーダ電波を用いて、月表面および地下から反射されてくる電波を観測し、地下約５kmまでの地層構造を探査する装置です。また、地球の人工電波に邪魔されない月の裏側で、惑星から来る電波の観測も行います。衛星内に収納されていた４本のダイポールアンテナを各々約１５ｍまで伸ばし、観測の準備を行いました（図３参照）。

・プラズマ観測装置（UPI）

月の軌道から可視と極紫外線の２種類の望遠鏡で地球の大気光やオーロラを観測する装置。望遠鏡は地球を自動追尾する機構に取り付けられ、衛星壁面に固定されていましたが、これを展開し、観測の準備を行いました(図４参照)。

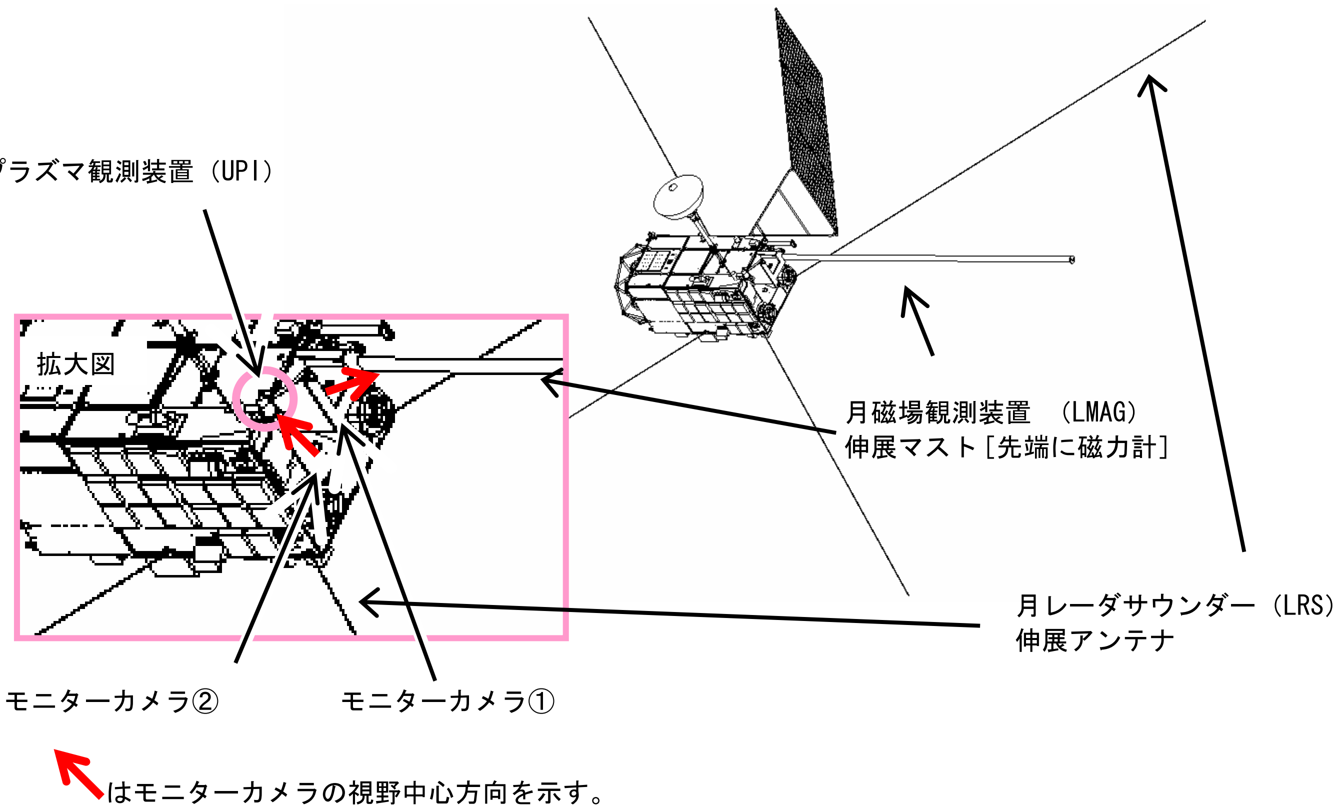
以上

※本情報につきましては、次のインターネットアドレスでもご覧頂けます。

【 http://www.jaxa.jp/projects/sat/selene/ 】

【 http://www.kaguya.jaxa.jp 】

＜図１　かぐや概観図＞



＜図２　LMAGマスト伸展画像＞

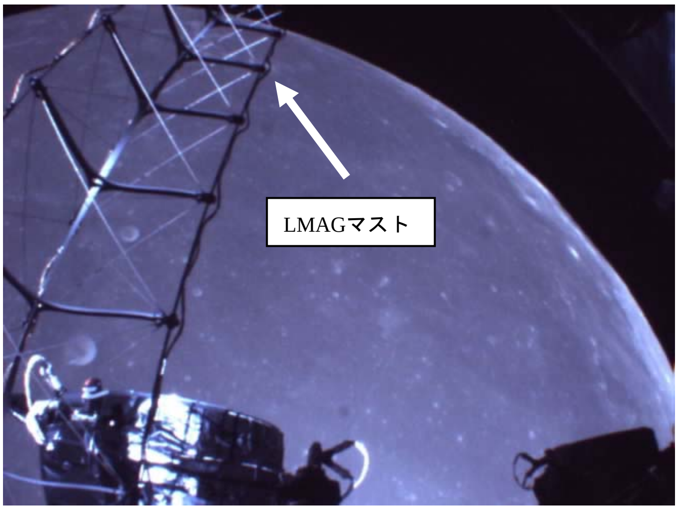


図２は、LMAGマスト伸展完了後に、「おきな」「おうな」分離確認用モニターカメラ（図１中①）で撮影したものです。打上げ時にはマストは約６０cmまで縮められており、今回１２mのマストを全て伸ばしました。磁場を測定するセンサ（磁力計）はマストの先端に取り付けられています。

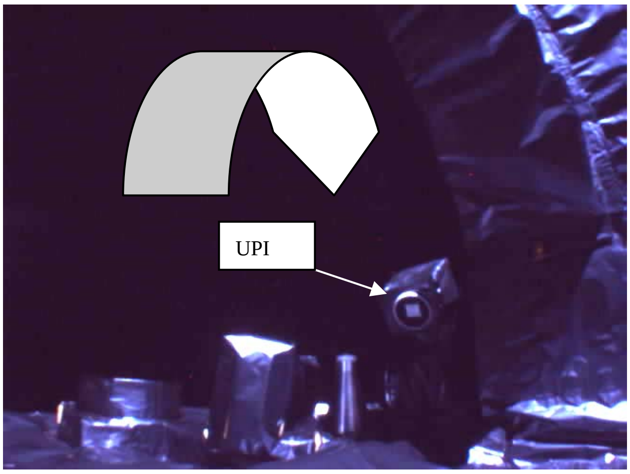
＜図３ LRSアンテナ伸展画像＞

LRSアンテナは１５ｍの４本のアンテナから構成されており、図３はそのうちの１本のアンテナ伸展を「おきな」「おうな」分離確認用カメラ（図１中①）で撮影したものです。

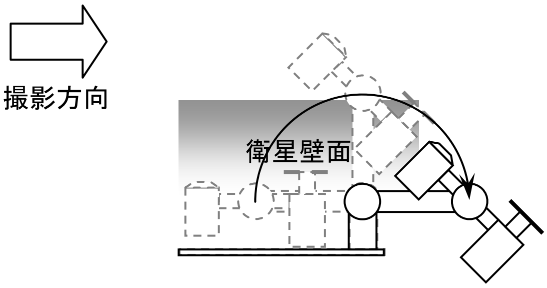
＜図４ UPI展開画像＞

（UPI展開前）

［手前の装置がUPIです］



（UPI展開後）

［UPIは展開して手前の機器の陰にあります］

UPIは、地球を自動追尾する機構に取り付けられた可視と極紫外線の２つの望遠鏡により、地球のオーロラなどを観測します（図１中②のカメラで撮影）。